

■ 感染対策とボランティア・市民活動との関係について

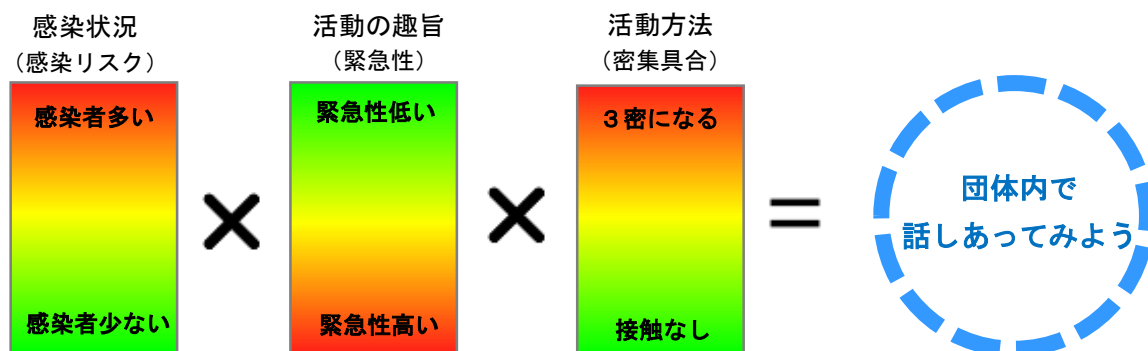
感染症の対策の大枠は下記の通りとなっています。

- 1 医療薬品による対策 … ①ワクチン、②抗ウイルス薬
- 2 医薬品以外による対策 … ①検疫強化（渡航の自粛等）、②公衆衛生上の対策（外出自粛、集会等の制限）、③个人防护（手洗い、マスクの着用、咳エチケット）

感染対策上、ボランティア・市民活動としてできる対策は2の②と③に関係してくると言えるでしょう。

■ 活動の判断の際に考えたい3つの軸

- 新型コロナウイルス感染拡大防止下においても、私たちのまわりで起きていることに取り組むために、多くの団体が活動を継続したり再開するための検討をされている状況にありますが、その際にも前提として市民活動とそこに関わるボランティアの自主性は尊重されなければなりません。活動する／しないは、最終的には、活動団体が決めることです。そして、**どのような判断でも、その判断は尊重されるべきもの**です。
- 一方で、新型コロナウイルスの感染を防止することは、いまや社会生活を維持する上で最も重要なこととなっており、**感染の影響を高めるおそれのある活動の仕方には慎重にならざるを得ません**。
- このような状況から、活動を再開していいのかどうか、判断に悩む団体も多いと思います。状況の変化をみながら慎重に検討することは、**重要なプロセス**です。課題にぶつかったとき、メンバーと話し合っって悩みを共有し、打開策を見出していくことは大切なことですが、例えば、話し合う時に、次の3つの軸を参考に考えてみてはいかがでしょうか。3つの軸とは、**①社会・地域の感染状況（感染リスク）、②活動の趣旨（社会における緊急性）、③活動方法（密集具合）**です。



- 例えば、感染者が多い時期に、緊急性が低い活動で3密になる活動は、感染拡大防止の趣旨を踏まえると、いまずぐに活動をするのを控えることを検討されてはいかがでしょうか。その逆であれば、今すぐにも行いやすい活動となります。
- ただし、いずれの軸も真ん中という状況も考えられます。また、感染者が多く、3密になる可能性があるが、緊急性が高い活動など悩ましい状況も多くあります。こうした状況について基準を作ることは非常に難しいと言わざるを得ません。
- いずれにしても、**統一的な基準を作るのではなく、これらの3軸について団体内で理解を深めることが大切**といえるのではないのでしょうか。それは、社会や地域の感染状況を正しく知ること、そして、自分たちの活動が対象者にとって緊急性が高いものかどうか見つけること、そして、活動方法としてどのような手段があるかを知ることです。団体内で、これらについて勉強をしたり、意見交換をしてみましょう。

◆ 1 社会・地域の感染状況・感染リスクを知る（東京都のロードマップを参考に）

- 社会・地域の感染状況・感染リスクを知るうえで参考になるのが、東京都が公表したロードマップです。**ロードマップは、「新しい日常」が定着した社会を実現するため、長期的な視点で感染拡大をコントロールしていくための道筋**です。外出自粛や休業要請を出すタイミングや逆に感染が少ない状況においては、段階的に外出や休業を緩和していく指標を示しています。
- ロードマップで出てくる用語の紹介です。

1 緊急事態宣言

・感染予防の実施や不要不急の外出の自粛、「三つの密」を避けるなど、政府が感染拡大防止の徹底を呼び掛けるものです。ロードマップでは、緊急事態宣言下では「外出自粛等の徹底を通じて、感染を最大限抑え込む」としており、都民や事業者に対して経済活動を含め、様々な活動の自粛を求めます（STAY HOME・STAY in TOKYO）。

2 第2波・3波

・ロードマップでは、再度、感染が拡大する時期（第2波）が来ることを想定しています。その場合には、再び、緊急事態宣言が出る可能性があります。

3 クラスター感染

・感染の関連がある集団のことを「クラスター」と言います。限られた空間の中で起きやすいです。クラスターが活動地域付近で発生した場合は、感染リスクが非常に高まります。

4 自粛要請緩和のステップ（参考）

・ロードマップでは、2週間をベースに自粛要請を4つのステップ（ステップ0～3）で緩和していく方針を出しています。ステップの数が大きいほど緩和に向かいます。ステップごとの主な内容は下記の通りです。

ステップ0…8割の接触を減らす。遊興施設、運動・遊技施設、劇場、商業施設への休業要請。イベントの開催自粛。

ステップ1…図書館や博物館は、入場制限を設け再開。飲食店は夜10時まで営業。イベントは、屋内100人以下かつ定員の半分以下、屋外200人以下まで。

ステップ2…劇場等は入場制限や座席間隔を設け再開。クラスター発生歴なく3密避けられる施設は緩和。

ステップ3…全施設の休業要請を解除。飲食店は夜12時まで営業。イベントは屋内1,000人以下かつ収容定員の半分以下、屋外は5,000人以下（段階措置あり）。

◆2 活動の趣旨を改めて団体内で話し合う

○ボランティア・市民活動の中には、「今日、食べる物が無い」という方への食事支援というような緊急性の高い活動もあれば、緊急性はそれほど高くないが重要な取り組み（例えば、課題を広く知ってもらうための講演会といったような普及啓発）もあります。新型コロナウイルスの感染リスクを考慮したうえで、皆さんの活動が、**いますぐにやらなければいけない活動なのかどうか、ぜひ一度、団体内で話し合ってみては**いかがでしょうか。

○それを話し合うことで、自分達がなぜこの活動を始めたのか、また、なぜこの活動を続けているのか、この活動が対象者や社会にとって、どういう意味を持っているのか、改めて考える機会につながります。このコロナ禍という期間を、**団体を見つめなおす機会**と捉え、原点をメンバー同士で共有して頂くことはとても大事なことです。

○ある居場所活動を行なう団体は、コロナの中で活動を再開した際に、関係者や協力者から「この状況で本当に実施するの？」と問合せが入ったそうです。何度もメンバー内で話し合い、結果的には人数制限をし、感染対策も徹底したうえで実施することになりました。一方、高齢者施設で傾聴活動を続けていた団体は、施設からは活動に来所してもらうことは可能と言われましたが、団体内で話し合った結果、入居者への影響を考え、「今の時期は活動を控える」という結論に落ち着いたそうです。

◆3 感染拡大に配慮したボランティア・市民活動の方法を知る

○活動の中には、対面でないとできない活動、対面でなくともできる活動があります。様々な事例を参考に自分たちの目的と状況にあった方法を検討してみてください。ウェブサイトに様々な事例が載っていますので、ぜひ検索してみてください。

○ウェブサイトに掲載されている新型コロナの中での取り組み事例集（一例）

・新型コロナの中でのボランティア・市民活動 参考事例集（TVAC）<https://www.tvac.or.jp/corona/jireisyu/>

・未来の豊かな“つながり”のための全国アクション（全社協）<https://tunagari-action.jp/>

■ 無理なく続けられるよう様々な選択肢を

○ボランティア・市民活動は本来自由意志にもとづくものです。実施する／しないという判断を行なうことも自身に任せられています。だからこそ「なぜ、活動するのか」「活動したいのか」が、重要ともいえます。意志に反して続けなければいけないわけでもありません。この機に新メンバーが中心になったり、又は不安のある人はいったん活動を休むと決めたり、やれることから少しずつ始めるなど、様々な選択の方法があるかと思います。ぜひ、これまで団体と関わりのある様々な方に相談してみてください。そして、これまでの活動と、これからの活動について、このコロナという時代の中で、今一度考えることができればと思います。